

令和5年度

岡山県ごみゼロ社会プロジェクト推進会議

資 料

令和5年5月24日（水）

ピュアリティまきび

目 次

I	令和4年度の取組実績について		
1	会議の開催	・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2	重点取組事業		
	(1) おかやま・もったいない運動の推進	・・・・・・・・・・・・・・・・	2
	(2) 3Rに関する啓発事業の実施	・・・・・・・・・・・・・・・・	4
	(3) 食品ロス削減の促進	・・・・・・・・・・・・・・・・	4
	(4) プラスチック3Rの推進	・・・・・・・・・・・・・・・・	7
	(5) 海ごみ対策	・・・・・・・・・・・・・・・・	8
3	その他普及啓発事業等	・・・・・・・・・・・・・・・・	9
II	令和5年度の取組(案)について		
1	会議の開催	・・・・・・・・・・・・・・・・	1 1
2	重点取組事業		
	(1) おかやま・もったいない運動の推進	・・・・・・・・・・・・・・・・	1 2
	(2) 食品ロス削減の促進	・・・・・・・・・・・・・・・・	1 3
	(3) プラスチック3Rの推進	・・・・・・・・・・・・・・・・	1 4
	(4) 海ごみ対策	・・・・・・・・・・・・・・・・	1 4
3	その他普及啓発事業等	・・・・・・・・・・・・・・・・	1 5

I 令和4年度の取組実績について

1 会議の開催

令和4年度岡山県ごみゼロ社会プロジェクト推進会議に係る会議を次のとおり開催した。

(1) 本会議（オンライン開催）

- ア 日時 令和4年5月24日（火） 14時～16時
- イ 出席者 委員16名、事務局
- ウ 議題
 - ・令和3年度 of 取組実績について
 - ・令和4年度 of 取組（案）について

(2) おかやま・もったいない！小学生ファミリーエコチャレンジコンテスト審査選考会

- ア 日時 令和4年10月19日（水） 9時～12時30分
- イ 場所 警察本部庁舎2階 入札室
- ウ 出席者 審査員2名（赤井委員、瀧澤委員）

(3) ワーキング会議

- ア 日時 令和5年3月1日（水） 14時～15時30分
- イ 場所 岡山県立図書館2階 サークル活動室1
- ウ 出席者 ワーキング委員10名、事務局
- エ 議題
 - ・食品ロス削減月間キャンペーンについて
 - ・事業系食品ロス削減マッチングシステム（おかやまフードトリップ）について

2 重点取組事業

(1) おかやま・もったいない運動の推進

「もったいない」をキーワードとして、循環型社会の形成に向けた3Rの推進や食品ロス削減についての県民一人ひとりの意識改革と実践活動を促すため、「おかやま・もったいない運動」を次のとおり推進した。

ア 「おかやま・もったいない運動」推進フォーラムの開催

○環境絵馬展示・表彰、環境啓発パネル展

- ・開催期間：令和4年6月1日（水）～30日（木）
- ・場 所：津山市立図書館前（アルネ津山4階）
- ・内 容：美作県民局管内小学4年生の「地球にやさしい生活」環境絵馬の展示・表彰、環境啓発パネルの展示（来場者：約500人）

○井原市環境フェア

- ・開催日時：令和4年6月5日（日）9時～12時
- ・場 所：井原駅前広場、井原駅ビル
- ・内 容：各種エコ体験、パネル展示、フードドライブ等

○1日環境大学2022 in 新庄村

- ・開催日時：令和4年7月23日（土）10時～15時
- ・場 所：真庭郡新庄村（田浪キャンプ場ほか）
- ・内 容：豊かな自然を通じた体験型の環境学習（参加者42名）

○3R等啓発パネル展

- ・開催期間：令和4年10月3日（月）～14日（金）
- ・場 所：環境学習センター「アスエコ」
- ・内 容：3Rや食品ロスに関する各種啓発パネルの展示（来場者87人）

○食品ロス削減講座（事例紹介&料理教室）

- ・開催日時：令和4年10月8日（土）
10時30分～11時30分、14時～15時30分
- ・場 所：環境学習センター「アスエコ」
- ・内 容：公共冷蔵庫（コミュニティフリッジ）を通じた食品ロス削減の取組についての事例紹介（午前：参加者6名）、野菜の皮等を丸ごと使うなど、食品ロスを減らすオリジナルレシピの実演（午後：参加者10名）

※令和5年2月13日からアーカイブ動画を公開

○講演会「食品ロスへの取り組みと環境問題」

- ・講 師：渡貫淳子氏（南極シェフ・「悪魔のおにぎり」考案者）
- ・開催日時：令和4年10月15日（土）10時30分～11時40分
- ・場 所：ハッシュタグ岡山（ブランチ岡山北長瀬内）
- ・内 容：食品を無駄にしない調理法などの実践を提案（参加者27人）

イ おかやま・もったいない！小学生ファミリーエコチャレンジコンテスト

県内の小学生とその家族を対象に、夏休み期間を中心に家庭でできる「食品ロス削減」や「プラスチック・海ごみ削減」に向けた取組にチャレンジした報告を募集し、優秀なもの表彰した。

- ・応募数 28校、967点
- ・受賞者 個人の部（最優秀賞1名、優秀賞5名、努力賞10名）
団体の部（最優秀賞1校、優秀賞3校）

○表彰式（「アースキーパーのつどい2022」において開催）

- ・日時 令和4年12月18日（日）11時～12時
- ・場所 岡山コンベンションセンター2階 レセプションホール
- ・参集者 受賞者、保護者等
- ・内容 表彰状授与、講評、記念撮影等



○作品展示

受賞作品16点について、表彰式会場及び県内3か所で展示を行った。

- ・岡山会場
展示期間：令和5年1月5日（木）～15日（日）
展示場所：岡山県生涯学習センター
- ・倉敷会場
展示期間：令和5年2月3日（金）～17日（金）
展示場所：倉敷市リサイクル推進センター

・津山会場

展示期間：令和5年2月24日（金）～3月10日（金）

展示場所：津山圏域クリーンセンター リサイクルプラザ



津山会場の様子

(2) 3Rに関する啓発事業の実施

ア 岡山県立図書館との連携展示

「スイッチ！ごみを減らしてエコライフ」と題し、3Rや海ごみ、食品ロス等についての啓発を行った。

- ・期 間：令和4年9月22日（木）～10月16日（日）
- ・場 所：岡山県立図書館1階 閲覧室入口
- ・内 容：ポスター等の掲示、パンフレットの配布、関連図書の展示

イ 3R等に関するアンケート調査

海ごみ問題・食品ロス問題など、県民の3R等に関する意識調査を行い、各施策の基礎資料とするためウェブアンケートを実施した。

- ・調査時期：令和5年3月
- ・調査内容：県民の3R、海ごみ問題、食品ロス問題等の関心度や意識等
- ・調査人数：1,200名（岡山県民）

(3) 食品ロス削減の促進

日本では、年間2,372万トンの食品廃棄物等が出されており、このうち、まだ食べられるのに廃棄される食品、いわゆる「食品ロス」は522万トンもあるといわれている。（環境省・農水省「令和2年度推計」）

こうした状況を受け、県でも、食品ロスの削減を県民に広く呼びかけている。

ア 事業系食品ロス削減事業

食品関連事業者とフードバンクを繋ぐマッチングサービス「おかやまフードトリップ」を構築した。（運用開始日：令和5年4月3日）



アプリ「Foodeal（フーディール）」
提供食品情報イメージ画面

イ 食品ロス削減月間キャンペーン

「食ロスゼロスイッチON!」をテーマに、県民にとって親しみやすく、食品ロス削減の重要性について理解と関心が深まり、削減に自主的に取り組んでもらえる普及啓発事業として、特設Webサイトを開設し、食品ロス削減に繋がる3つの消費行動「食べきり」「使いきり」「手前取り」について紹介するとともに、当該行動の達成状況に応じて、食品ロス削減に繋がるプレゼント応募企画を実施した。

(企画参加者数：1,366名)



岡山駅前啓発塔への
懸垂幕の掲出



月刊タウン情報
おかやまでの広報

ウ 地域で食品ロス削減の輪を広げよう！モデル事業

若い世代の食品ロス削減意識の醸成のため、くらしき作陽大学栄養学科の大学生が、地域の食材・食品の生産過程や食べきる工夫などフィールドワークで調査した食品ロス削減内容を教材にまとめ、3つの小学校で出前授業を行った。

○倉敷市立下津井西小学校

(5年生1クラス 8名)

日本の食品ロスの現状や地元倉敷市が行っている食品ロス削減の活動について学び、家庭や学校でどのようにしたら食品ロスを減らせるかを考え、実践可能な目標をカードに記入した。

(令和4年10月19日、11月11日)



○赤磐市立山陽東小学校

(5年生3クラス 88名)

給食を通じて地元赤磐産の食材、製品を学び、一層の愛着心の醸成とともに生産者に対する感謝の気持ちを深め、実践可能な目標をカードに記入した。

(令和4年11月4日)



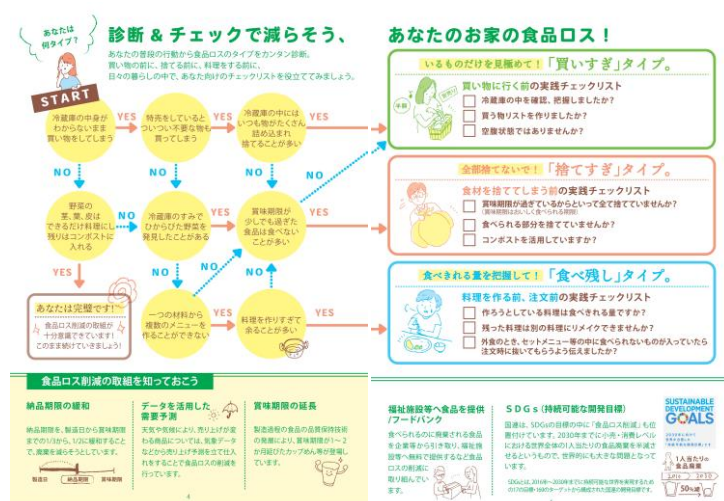
○倉敷市立老松小学校 (5年生4クラス 145名)

給食の残量調査の結果を題材に、もったいないという意識付けをするとともに、食品ロスを減らすために学校や家庭でできることをグループワークで考えた。その後、それぞれが一週間取り組み、達成結果を記録した。

(令和4年11月25日)

エ 食品ロス削減ヒント集「食品と家計のもったいないを減らそう！」

各家庭で食品ロスを減らすポイントとなる「買いすぎず」「使いきる」「食べきる」の3つの切り口で具体的なアクションを分かりやすく記載した小冊子を配布した。



- オ 「全国おいしい食べきり運動ネットワーク協議会」との連携（事務局：福井県）
全国 47 都道府県 439 自治体（うち県内 9 自治体）が参加
県内参加自治体：岡山県、岡山市、倉敷市、玉野市、笠岡市、瀬戸内市、
真庭市、里庄町、矢掛町

（４）プラスチック 3 R の推進

プラスチックは生活に欠かせない素材で、大量消費される一方、環境に与える影響が大きな問題となっている。県民及び排出事業者にプラスチック 3 R の情報提供を行い、廃プラスチック削減に向けた主体的な取組を促した。

ア ワンウェイプラスチック削減キャンペーン

3 R 等に比較的関心の薄い若年層を中心とした県民への啓発を行うため、若い世代への高い啓発効果が期待できるファジアーノ岡山と連携し、ワンウェイ（使い捨て）プラスチックの 3 R の意識醸成を図るため、キャンペーンを実施した。

○実施日 令和 4 年 9 月 10 日（土）

モンテディオ山形戦

場 所 シティライトスタジアム

内 容

- ・ファジフーズ（飲食物）容器等の転換

飲料容器：プラ製⇒紙製

スプーン：プラ製⇒木製

ストロー：プラ製⇒竹製

割り箸袋：プラ製⇒紙製

- ・野外ステージイベント（クイズ大会）

- ・「知ろう！学ぼう！海洋プラスチック問題」ブースの開設（パネル展示等）

- ・試合入場者へ「おかやまプラスチックスマートハンドブック」の配布 など

○啓発動画の配信

- ・コラボ動画を作成し、ホームゲーム時に大型ビジョンにて放送

（9/17 長崎戦 入場者数 8,321 人、9/25 仙台戦 入場者数 11,661 人）

- ・YouTube ファジアーノ岡山公式チャンネルへ掲載

- ・ファジアーノ岡山メルマガ登録者（約 2 万人）へ配信



イ おかやまプラスチック 3 R 宣言事業所

県内の事業所に、プラスチック製品の不使用や、リユース、異なる素材の製品への切替え（例：従業員にマイボトル持参を促す、プラスチック製容器包装を減らす、材料を代替素材に変更する）など、プラスチック製品の 3 R を宣言し取り組んでもらった。

宣言を行った事業所には登録証を交付し、取組を行っていることをアピールでき

る資材（のぼり旗など）を配布するとともに、事業所名や取組内容を県ホームページで公開している。（登録事業所数 1,285 事業所（令和4年度末時点））

ウ 新機能リサイクルボックスの設置

自動販売機横のリサイクルボックスには、飲料容器以外の異物が約3割混入することや、周辺へのごみの散乱が問題となっていたことから、（一社）全国清涼飲料連合会が開発した投入口が下向きとなっているリサイクルボックスを利用者が多い県有施設に設置した。（7カ所57台）

（5）海ごみ対策

海ごみの発生抑制に向け、住民意識の醸成と実践行動を促進するため、普及啓発事業を実施したほか、「おかやま海ごみクリーンアップ宣言」に基づき、市町村や経済団体との役割分担と連携・協力により、海ごみ等の回収・処理と発生抑制体制の構築に向けて効果的な取組を検討。瀬戸内4県（広島県、岡山県、香川県、愛媛県）と日本財団が連携協定を締結し、共同で推進している包括的海洋プロジェクト「瀬戸内オーシャンズX」においても海ごみ対策に取り組んだ。

ア 海と川と山、環境と文化をつなぐ美化意識啓発事業

①海ごみ・プラごみ削減フォーラムの開催

地区町内会、学生、企業、自治体等による海ごみ対策の取組事例の報告や、上記モデル事業の報告、基調講演等を行うフォーラムを開催した。

日 時：令和5年2月26日（日）14時～16時30分

場 所：岡山国際交流センター 国際会議場

参加者数：120名（会場55名・オンライン65名）

②三大河川流域啓発リレーステップアップ事業の実施

令和元～3年度に行った三大河川流域啓発リレー事業の集大成として、海ごみに対する意識の更なる醸成を図るためのイベント「学んで実践！！瀬戸内ゴミ0作戦」を実施した。

日 時：令和4年11月5日（土）

場 所：イオンモール岡山 未来スクエア

内 容：専門家等によるセミナー

海ごみ問題について取り組む中学生、高校生による発表

海ごみクイズ大会

リサイクル楽器づくりブース

海ごみ関係展示（県内25市町村で作成した海ごみ横断幕の展示）等
また、三大河川流域啓発リレー未実施の2町村においてパネル展示等を行った。

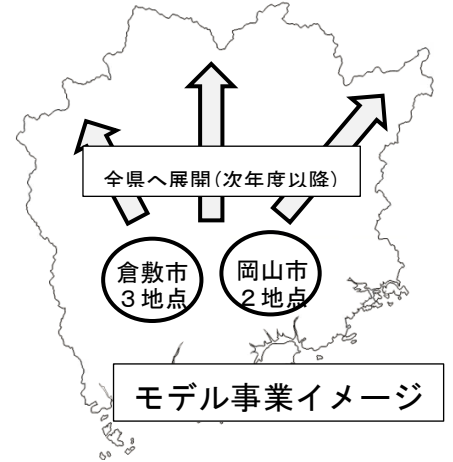
新庄村（新庄村中央公民館）令和5年1月18日（水）～2月7日（火）

勝央町（勝央町図書館）令和5年2月8日（水）～26日（日）

③河川ごみ等回収・発生抑制モデル事業

ごみの回収活動が「自発的」「継続的」に行われるよう、町内会や学校等において、地域の実情に応じたごみ回収活動のシステムづくりを行った。

	モデル	内 容
岡山市内	岡山市立 操南中学校	中学校（生徒会及び有志）と 地元町内会とで連携 清掃活動を恒例行事化
	岡山大学教育学部 附属中学校	中学校（環境委員会）と地元 ボランティア団体とで連携 清掃活動を恒例行事化
倉敷市内	倉敷医療生活協 同組合	月に1度の定例会に併せ、清掃 活動を行うことを行事化
	新日本婦人の会 倉敷支部	用水路にごみ回収ネットを張 り、日常的にごみ回収する体 制を構築
	岡山県立倉敷古 城池高等学校	学校と水門管理者とで連携 水門にかかるごみを高校生が 回収する体制を構築



④海ごみ啓発資材の配布

海ごみ削減に向けた啓発メッセージ入りの付箋を配布した。

⑤漂着ごみ組成調査事業（県内 27 か所）

漂着ごみが多く、地域住民による清掃活動が行われていないか頻度が少ない場所を選定し、漂着ごみの回収及び分類、計測、記録を行い、実態の把握を行った。

⑥岡山県海ごみ対策連絡調整会議の開催

全県で海ごみ対策を推進するため、岡山県海ごみ対策連絡調整会議を開催し、各構成員の取組について共有するとともに、瀬戸内オーシャンズXが新設した基金の助成対象団体へ知事から激励を行った。（令和4年10月6日）

イ 海ごみクリーンアップ事業

市町村による海ごみの回収、処理及び発生抑制対策に係る事業費について、補助金として交付した。

3 その他普及啓発事業等

(1) 岡山エコ事業所認定制度の普及啓発

事業所における排出抑制、グリーン調達等の促進等を図るため、岡山エコ事業所（ゼロエミッション事業所、一般事業所、小売店）認定制度の周知を図るとともに認定を実施した。

- 認定件数（令和4年度末時点） 284事業所
- ・排出抑制、再利用に取り組む「ゼロエミッション事業所」 51事業所

- ・再生品を使用する「一般事業所」 33事業所
- ・再生品等を販売する「小売店」 200事業所

(2) 岡山県エコ製品認定制度の普及啓発

再生品の需要を喚起し、資源の循環的な利用を促進するため、岡山県エコ製品認定制度の普及啓発に努めるとともに認定を行った。

○認定件数（令和4年度末時点） 385製品

また、イベントにおいて、岡山県エコ製品認定制度と岡山エコ事業所認定制度のPRを行った。（令和4年6月5日 井原市環境フェア）

加えて、県のホームページへの掲載、普及啓発パンフレット「おかやまエコガイド」の作成、配布等の各種広報を行った。

Ⅱ 令和5年度の取組(案)について

1 会議の開催

(1) 本会議

- ア 日 時 令和5年5月24日(水)
- イ 場 所 ピュアリティまきび
- ウ 出席者 委員、事務局
- エ 議 題
 - ・令和4年度の取組実績について
 - ・令和5年度の取組(案)について

(2) おかやま・もったいない!小学生ファミリーエコチャレンジコンテスト審査選考会

- ア 日 時 令和5年10月(予定)
- イ 場 所 岡山市内
- ウ 出席者 審査員4名

(3) ワーキング会議

- ア 日 時 令和6年2月頃
- イ 場 所 岡山市内
- ウ 出席者 委員、事務局
- エ 議 題 (未定)

2 重点取組事業

(1) おかやま・もったいない運動の推進

「もったいない」をキーワードとして、循環型社会の形成に向けた3Rの推進についての県民一人ひとりの意識改革と実践活動を促すため、「おかやま・もったいない運動」を実施しており、令和5年度は次のとおり行う。

ア 「おかやま・もったいない運動」推進フォーラムの開催

「循環型社会形成（もったいない）」をテーマに、県民が日常生活の中で実践できることを講演、活動事例発表、パネルディスカッション等を通じて提示するとともに、県の3R関連施策や環境団体（NPO法人、地域団体、学校等）の活動内容について展示するブースを設置することにより、広く情報の発信・収集・交換を図るイベントとする。

3県民局ごとに、地域の状況に応じた内容で実施する。

- ・開催時期：令和5年5月～令和6年3月（予定）
- ・会場：3県民局管内各1～2か所程度（予定）
- ・参加者：県民、消費者・環境団体、事業所、行政職員等
- ・プログラム（例）

基調講演：講師（全国的な知名度があり、造詣が深い人）

活動事例発表：「もったいない」の取組を実践している団体・学校、企業

展示コーナー：岡山県エコ製品、岡山エコ事業所、プラスチック等の3R、食品ロス削減、海ごみ対策等の県の施策とともに、環境団体（NPO法人、地域団体、学校等）の活動内容を展示・紹介するブースを設ける。

イ おかやま・もったいない！小学生ファミリーエコチャレンジコンテストの実施

もったいない精神の普及、3Rに対する意識の高揚、再生品の使用促進を図るため、小学生を対象として家庭で食品ロス削減やプラスチックごみの削減、海ごみ削減を通じた3Rの取組を行うコンテストを実施する。

- ・主催等

主催：岡山県

共催：岡山県ごみゼロ社会プロジェクト推進会議・（公財）岡山県環境保全事業団

後援：岡山県教育委員会

- ・対象者：県内に住んでいる小学生とその家族
- ・募集方法：6月中旬頃、県内全小学校に募集案内を送付
- ・応募期限：令和5年9月15日（金）
- ・取組内容：令和5年8月31日までの1週間、小学生とその家族が、家庭での日常生活を通じて、食品ロス、プラスチックごみ、海ごみ削減に向けた改善策を工夫し実践する。

A 食品ロス削減チャレンジ

…買い物や食事における食品ロス削減に向けた取組

B プラスチック・海ごみ削減チャレンジ

…プラスチック製品の使用削減、河川等へのごみの流出防止等の取組

・応募方法：取組結果を報告用紙に記入の上、提出

・表彰（予定）

（個人の部）最優秀賞 1名 表彰状・副賞（5千円相当）

優秀賞 5名 表彰状・副賞（3千円相当）

努力賞 10名 表彰状・副賞（2千円相当）

参加賞 応募者全員

（団体の部）最優秀賞 1校 表彰状・副賞（1万円相当）

優秀賞 若干校 表彰状・副賞（5千円相当）

・選考方法：

主催者が委嘱する審査員により選考委員会において審査の上、決定

・表彰式：令和5年12月（予定）に岡山市内で行う。

（2）食品ロス削減の促進

家庭系食品ロス削減に向け、県民の意識を高める啓発事業を強化するとともに、事業系食品ロスについても削減に向けた取組をさらに行っていく必要があることから、次の事業を実施する。

ア 事業系食品ロス削減事業【拡充】

食品関連事業者とフードバンクをつなぐマッチングサービス「おかやまフードトリップ」の運用、利用促進に向けた周知を行う。

イ 実践を促す！食品ロス削減月間キャンペーン事業

食品ロス削減月間の10月を中心に、食品関連事業者等の多様な主体と連携した県民参加型キャンペーンを実施することで、食品ロスについて知ってもらうだけでなく、食品ロス削減の取組への実践を促す。

ウ 地域で食品ロス削減の輪を広げよう！モデル事業【拡充】

大学生がフィールドワークで研究した食品ロス削減内容を教材にまとめ、小学生等に出前授業を行うことで、若い世代の食品ロス削減意識の醸成を図る。

エ 「全国おいしい食べきり運動ネットワーク」との連携

食べきり塾（食品ロス削減の学習会）への参加や全国共同キャンペーンと連携した取組を実施する。

オ その他啓発

Web活用等による広報、「食品ロス・家庭ごみ削減ヒント集」の配布、啓発

資材の作成等

(3) プラスチック3Rの推進

海洋プラスチックごみによる環境汚染問題の深刻化、プラスチック資源循環法の施行に伴う資源循環の重要性の一層の高まりを受け、次の事業を実施する。

ア ワンウェイ（使い捨て）プラスチック削減キャンペーン

使い捨てのプラスチック製品に頼らないライフスタイルへの見直しやプラスチック製品から代替素材の製品への切替えなど、ワンウェイプラスチックの使用削減について啓発するキャンペーンをトップクラブチームであるファジアーノ岡山と連携して行う。

イ おかやまプラスチック3R宣言事業所【拡充】

県内の事業所に、プラスチック製品の不使用や、リユース、異なる素材の製品への切替え（例：従業員にマイボトル持参を促す、プラスチック製容器包装を減らす、材料を代替素材に変更する）など、プラスチック製品の3Rを宣言し取り組んでもらい、宣言を行った事業所には登録証を交付するとともに、取組を行っていることをアピールできる資材（例：のぼり旗など）を配布する。宣言した事業所名及び取組内容は県ホームページで公開する。

また、令和5年度は宣言事業者の好取組事例を募集し、その内容を年1～2回、全宣言事業者に配信する。

ウ プラスチック3Rに関する広報

パンフレット等の啓発資材を作成し、県内の環境イベント等で配布するとともに、各種媒体を利用して広報を行う。

(4) 海ごみ対策

瀬戸内海の海ごみは河川等を通じて流れ込んだ生活系のごみが大半であることから、普及啓発による県民の発生抑制への意識づけが必要であるとともに、効果的な回収・処理体制の構築に向けた検討が必要である。また、瀬戸内オーシャンズX等の活動を通じて、瀬戸内海の沿岸県と広域的に連携して海ごみ対策に取り組む。

ア 海と川と山、環境と文化をつなぐ美化意識啓発事業

① 河川ごみ等回収・発生抑制モデル事業

ごみの回収活動が「自発的」「継続的」に行われるよう、町内会や学校等において、地域の実情に応じたごみ回収活動のシステムづくりを行う。

② 海ごみ・プラスチックごみ削減フォーラムの開催（県内1回開催）

NPO、アダプト認定団体、関連事業者、行政担当等に対し、おかやま海ごみクリーンアップ宣言を踏まえた具体的な取組を進めるためのフォーラムを開催する。

③ 漂着ごみ組成調査事業（県内27か所）

漂着ごみが多く、地域住民による清掃活動が行われていないか頻度が少ない場所を選定し、漂着ごみの回収及び分類、計測、記録を行い、実態の把握を行う。

④ 海ごみ啓発資材の作成、広報

海ごみ対策やマイクロプラスチックの海への影響等を紹介する啓発資材の作成、広告媒体への掲載

⑤ 海ごみ対策連絡調整会議の開催

⑥ 用水路・海ごみ回収ロボットのアイデアコンテストの開催【新規】

プラスチックごみをはじめとする海ごみの効率的な回収を実現するロボットについて、高校生等を対象にアイデアを募集し、コンテストを開催する。

イ 河川ごみ等回収促進事業【新規】

市町村等が河川等管理者や清掃ボランティアからの依頼に基づいて行う回収後の河川ごみ等の運搬、処分について、県管理エリアの内外にかかわらず運搬等に要した経費を県が市町村等に全額支払う（一定規模以上の清掃活動に限る）。

※一定規模以上：45L ごみ袋 50 袋以上の回収見込みであること

ウ 海ごみクリーンアップ事業

市町村による海ごみの回収、処理及び発生抑制対策事業への助成を行う。

3 その他普及啓発事業等

(1) 岡山エコ事業所（ゼロエミッション事業所・一般事業所・小売店）認定制度や認定事業所の取組及び岡山県エコ製品認定制度や認定製品を広く周知することにより、グリーン調達等の促進を図る。

(2) 3R推進につながる各種取組の情報提供を行う。